

令和7年度第2回印西市史編さん委員会議事録（要旨）

- 1 開催日時 令和8年3月26日（木）午前10時00分～午前11時30分
- 2 開催場所 中央公民館 3階学級講座室
- 3 出席者 榎委員長、木村委員、大友委員、伊藤委員、高花委員、石井委員
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 飯島文化振興課長、五十嵐木下交流の杜歴史資料センター所長、大関主任学芸員
- 6 傍聴者 0人（定員5名）
- 7 議題 (1) 令和7年度市史編さん事業報告について
(2) 令和8年度市史編さん事業計画（案）について
(3) その他
- 8 配布資料 配布資料 会議次第、資料1：令和7年度市史編さん事業報告について
資料2：令和8年度市史編さん事業計画(案)について、その他：組織の改編について、芸術祭について（チラシ）

委員長あいさつ

議事録署名委員の選出 大友委員を選出

議事録は、要点筆記で作成し、校正の際には、発言内容に齟齬がないように署名委員に確認をお願いします。

議事（榎委員長が議長として議事進行）

■議題（1）令和7年度市史編さん事業報告について

議長：議題（1）令和7年度市史編さん事業報告について、事務局より説明をお願いします。

事務局：それでは、議題（1）につきまして、配布資料の右上に「資料1」と記載されているものに則して、令和7年度市史編さん事業を報告させていただきます。

最初に「会議」ですが、市史編さん委員会（会議）を2回開催いたしました。第1回目は令和7年8月28日（木）、第2回目は本日令和8年3月26日（木）、場所は本日と同じ中央公民館で開催されました。

第1回目の議題では特に印西市史の刊行計画の変更について承認をいただきました。次に「事業」ですが、事業件数は令和8年2月28日時点のものです。

1. 刊行事業です。（1）市史編さん専門委員に関するものうち、ア 編集会議で

す。編集会議は、編集委員と専門委員から委嘱しております部会長で構成されていますが、第1回目、第2回目とも書面開催でした。内容は、本市史編さん委員会とほぼ同様のものでした。

次にイ．専門部会です。それぞれの専門部会が調査、会議を開催いたしました。

まず、近世部会です。現在、11名に委嘱させていただいています。調査は18回実施（令和8年2月末現在）しました。調査先は木下交流の杜歴史資料センター、印旛歴史民俗資料館、白井市歴史資料館、成田山霊光館です。会議は4回実施しました。会議の第1回目は令和7年6月22日でした。主たる議題は、6月から新たに委嘱された6名の委員の紹介と分担調整でした。第2回目は令和7年9月28日でした。主たる内容は、収蔵史料の状況、筆耕の状況確認のほか、市史刊行計画の進捗状況の確認でした。加えて、会議前の木下の杜の巡検を行いました。第3回目は令和7年11月30日でした。主たる内容は資料編に関するものでした。第4回目は令和8年2月19日にした。主たる内容は、それぞれの委員からの報告、資料編、通史に関するものでした。

次に中世部会です。現在の委嘱委員は5名、城郭跡ほかの調査は9回、資料編等編集4回を行いました。会議は3回です。会議の第1回目は令和7年7月10日でした。主たる内容は資料編に関するものです。第2回目は、令和8年8月18日でした。主たる内容は資料編に関するものです。第3回目は令和8年3月8日でした。主たる内容は第2回目と同じです。

次に民俗部会です。令和7年10月1日付けで、9名の委員に委嘱させていただき、新たに部会が発足いたしました。令和7年11月1日の第1回目の会議で分担割を行い、会議後に本埜地域の巡検を行いました。

次に原始古代部会です。現在、編集委員として1名委嘱を依頼して打ち合わせを行っています。

次に（2）市史刊行です。市史研究誌「印西の歴史 第16号」が3月刊行になります。研究紀要は、例年どおり刊行されます。

次にその他項目にある（1）史料収集及び整理保管です。（a）史料収集は随時行っています。整理保管については、現在の保管分のうち寄託が52件ですが、本年度2件新規追加がありました。また、現在の保管分のうち寄贈が144件ですが、本年度9件新規追加がありました。購入については、令和7年度に購入したものはございません。（c）史料整理については、古文書の目録作成を行いました。家文書7件が対象でした。資料に掲示のとおりです。また、検索の利便を高めるために、紙媒体のデータのうち40件を電子媒体へ移管しました。新たに寄託・寄贈をいただいた史料につ

いては、燻蒸等の処置を行いました。令和8年2月3日から一週間行いました。

次に、イ 歴史公文書の引継ぎ及び整理保管です。令和7年3月31日までで保存期間が満了した行政文書のうち、歴史的な公文書を取捨選別の上、引き継ぎ、整理保管しました。文書箱換算で、23箱相当になります。そのほか、他の行政機関からの文書も収集保管しています。これらを整理し、目録を作成し保管しております。現在、木下交流の杜歴史資料センターで保管しているものは、約2,000箱になります。図書については、他の機関から寄贈いただいた図書も保管しております。

次いで(2)普及活用事業のことです。来館者は、令和8年2末日で2,502名(年度)でした。展示は年間通じて常設展示を行っております。特別展示では、令和7年11月19日から令和8年2月21日まで、地元団体からの依頼を受けて、吉岡家所蔵のチラシの版木を展示しました。これは吉岡まちかど博物館との連携になります。

そのほか、外部団体等からの展示解説希望の申し込みを受け付けておまして、2月末日現在で8件の申し入れを受けています。

次にイ 市史講座等の開催です。市史編さん講演会を令和7年10月25日に開催しました。講師は、旧石器を専門にしている橋本勝雄氏と印西市学芸員の根本でした。いずれも旧石器に関する講演でした。参加者は42名でした。

そのほか、歴史史料センターで保管しております史料の利用、閲覧、貸出等を随時行っております。2月末日現在で45件の利用がありました。市史情報の提供は、軽微なものを除いて、2月末日現在で17件の対応を行いました。

そのほかへの啓蒙活動として、コラムなどの執筆・掲載も行いました(広報いんざい)。年間に4回です。

市史刊行物の頒布は、市内の公共施設8か所で行いました。2月末日時点で168冊、172,720円の販売実績となっております。

(3)その他 関係団体への参加では、千葉県史料活用保存連絡協議会に、印西市理事として参加しています。

令和7年度事業報告は、以上です。

議長：ただいまご説明いただきましたことについて、質問・意見などありますか。

委員：2. その他(1)歴史資料の収集及び整理・保管事業 (a)資料の収集 随時の項について、寄託、寄贈史料とはどのようなものか。

事務局：寄託は、本埜地区で近世から近代にかけての史料でした(2件)。寄贈は、本埜地区での近世の史料文(1件)、大森地区の明治初期の和本、そのほか写真(千葉県関係)な

どでした。

委員：燻蒸のことをお聞きしたい。

事務局：全体の燻蒸は、平成28、29年頃実績がありますが、それ以降、日常管理、すなわち持ち込み段階で、その都度の燻蒸を行っています。今は、薬剤の人体への影響などを考慮して全館燻蒸という方法は行っていません。なお、令和6年度には、環境調査（虫、カビなど）を行っております。令和8年度にも行う予定です。

議長：令和6年度には、甚得な害は無かったのか？

事務局：ありませんでした。

委員：資料の購入について、過去の実績とこれからの予算についてお聞きしたい。

事務局：過去には小林地区に関する近世の古文書を購入した実績があります。現在は、購入費用を予算としては確保してはおりません。

委員：確保していないのか。

事務局：確保していません。

委員：何か貴重なものが出てきたときに、予算の流用などで対応できるか？

事務局：流用ができる条件としては、緊急性のあるもの、貴重性があるものなどがあるので、その場合は流用に頼る可能性は否定できません。

議長：本当に貴重なものが出てきたときには、流用できる可能性があるということか。

事務局：そのとおりです。

委員：近世部会での調査等の経験を通じて、日常のコミュニケーションの維持というアクセスが重要ではないか、市にとって古文書等の資料が重要なのだという声掛けが必要でないか、という感想を持っている。

事務局：「広報いんざい」を通じて今後とも周知していくことを検討します。文化財（歴史的建造物など）の見直しが進んでいることもありそちらとの情報共有も活用していきたい。

議長：「広報いんざい」のコラムのことについてはどのようなものを書かれているのか。

事務局：広報紙の発行月に関係するような歴史コラムを掲載しています。例えば8月では戦時の掩体壕のこと、10月では神楽に関するテーマとして取り上げました。

議長：誰が執筆しているのか。

事務局：秋までは、木下交流の杜歴史資料センターと印旛歴史民俗資料館とが交代で執筆していました。

議長：今後も継続するのか。

事務局：今後については、紙面改正もあり秘書広報課との調整が必要になります。新しいコラムは歴史だけではなく、観光紹介などにも焦点が当てられ、その中で歴史の分野にも触れる可能性はあります。

事務局：市民から文化財の所在などについて周知が十分ではない、という指摘を受けています。

紙媒体だけではなく、インターネット、SNS や講演などの行事、健康ウォーキングなどとの連携など様々方法を検討していただきたい。

委員：寄託や寄贈の契約形態についてももう少し詳しくお聞きしたい。

事務局：寄託は3年間です。経過後は更新となります。寄託を途中で解除して戻すということは過去にはありました。寄託から寄贈に変更することは可能です。本年度も1件ありました。今後は増加する傾向にあると思います。

委員：個人が、そのようなものを継続して保有することは難しい時代が到来していると思う。相続等によって散逸する可能性もあり、所有権がどこにあるのかは地域の歴史文化を語る史料では重要なことですから、機会に応じて、寄贈へ転換していく方向に向くのがよいと思います。

事務局：本年度については、寄託の途中解除を申し出た方について、文化財としての貴重性や利用の態様を紹介し、延長へ再考していただいたことがありました。木下交流の杜歴史資料センターとしては、収集後の保管についても慎重に対処しています。

議長：それでは、議題（1）令和7年度市史編さん事業報告について御了承いただくことでよろしいでしょうか。

（承諾意思表示あり：【うなずきあり】）

議長：御了承していただき、ありがとうございます。議題（1）令和7年度市史編さん事業報告は了承されました。

■議題（2）印西市史刊行計画の変更について

議長：それでは、議題の（2）令和8年度市史編さん事業計画（案）について、事務局から説明をお願いします。

事務局：では、議題の（2）令和8年度市史編さん事業計画（案）について、資料右上に「資料2」と表示されている配布資料によって御説明をさせていただきます。

まず、市史編さん委員会の「会議」ですが、2回予定しています。時期は、第1回が令和8年7月頃、第2回が令和9年3月頃です。

「事業」のうち、（1）市史編さん専門委員については、市史編さん専門委員による編集会議を2回（全体調整）予定しています。

次いで、部会単位です。

近世部会が委員9名で構成され、会議開催を年間4回予定しています。当該会議のほか、調査・分析等、掲載史料選定、文書筆耕作作業などを行います。

中世部会が委員5名で構成され、会議開催を年間4回予定しています。当該会議のほか、石塔等について資料編刊行に向けた最終段階の調査、原稿の執筆、執筆された原稿

の編集、その他補足調査を予定しています。また、史料編に掲載予定の中世水域復元図修正作業を行います。

民俗部会が委員9名で構成され、年間を通して調査・分析を行います。会議は年間4回予定しています。

原始・古代部会は委員1名ですが、これまでの発掘等のデータ整理を行います（調査2回予定）。

次いで、(2)市史刊行では「印西の歴史 第17号」の刊行を予定しています。仕様は変更なし。刊行にあたり、市民を対象に、広報いんざい（5月1日）、及び印西市ホームページで投稿原稿を募集します。また、市史刊行にかかる編集委員会開催を2回予定しています。

次いで「2. その他」のうち、(1)歴史資料の収集及び整理・保管事業についてです。収集は、例年どおり行っていきます。現在、保管中の未整理の史料に関する整理を継続して行ってまいります。そのほか、保管している資料の保存では、燻蒸を例年どおり11月頃を予定しますが、寄贈・寄託史料が集まった段階で決定します(c)。史料の保管は、センター以外に保管しているものを移動させることを予定しています(d)。

イ 歴史公文書の引継・収集及び整理・保管です。これは例年どおり、令和8年3月31日に保管期間が満了した公文書を取捨選別の上、引継ぎを行います。時期は5月から6月にかけて行います。その他、県や他市で出されている行政文書も収集します。引継ぎ・収集後、それらの史料の資料の目録を作成していきます。

(2)普及活用事業です。歴史資料センターでは、常設展示は継続して行い、展示説明も希望があれば行います(a)。企画展は現在未定ですが、今後は開催したい意向です(b)。(ア 展示事業)

イ 市史講座等の開催は、市史編纂講演会を行います(時期未定)(a)。現在、中世部会の井上委員に「印西地域の城郭」についてお話していただく予定です。市史編纂講座(b)は、現在未定となっております。

ウ 市史刊行物の頒布です。印西の歴史第16号を市内の小中学校や関係機関に無償頒布します。有償頒布は、市役所等市内8か所で行います。市のイベント会場等での販売も予定しております。

そのほか保管資料の活用、市史情報の活用では(エ、オ)、史料の閲覧、掲載、貸出を行い、史料に関する問い合わせがあったときは、対応して参ります。

次いで（３）その他です。

関係団体への参加では、千葉県史料保存活用連絡協議会に継続して参加します（ア）。

専門研修等への参加では、アーカイブ関係の研修に参加していきます（イ）。

関係団体ですが（ウ）、木下まち育て塾（市民団体）との連携もありましたが、本年度も継続していきます。特に宝田家の古文書について協力関係を維持します。

市制施行30周年芸術祭です（エ）。これは成田市、栄町との連携で開催され、令和9年3月20日～5月23日で開催されます。こちらは、広告紹介で後ほど御説明いたします。

令和8年度市史編さん事業計画の説明は、以上になります。

事務局：補足説明をさせていただきます。まず、1の刊行事業です。

近世部会、中世部会等におきまして、各専門委員の皆さまに調査等お願い申し上げたいと思いますが、令和7年度と比べまして、会議回数が増えています。調査回数も増やさせていただきたいと思います。これに応じて、市史刊行事業に関する予算も、令和7年度と比較して、約2倍になっております。これは市として、編さん体制の強化を考えております結果でございます。よって各部会の長の皆さまとは、連絡調整をさらに密にさせていただき、かつ、御指導いただきたくお願い申し上げます。

市史編纂の講演会のことです。今回は、印西地域の城郭ということで予定しております。さきほど榎委員長が、新住民の方には印西の歴史に関心を示されている方々もいらっしゃるということに言及されていましたが、そうしたことは私共も承知いたしております。今回の講演会は、市民アカデミーを通じて実感された市民の方々の中世への関心を受けたものでございます。

議長：それでは、御質問等がございましたらお願いいたします。

委員：市史刊行のうち、「印西の歴史」ですが、誰に読んでもらいたいのかを教えてください。

専門家が書いているので、一般の読者にも分かるような、例えば注釈のあり方などに工夫が必要であると思う。

事務局：一般市民、例えば中高生などを含む市民一般を対象としています。その意味では、書かれている方々が専門家であることから、委員指摘のように分かりにくいという部分もあります。ただ、「印西の歴史」は一般市民を対象としながらも、同時に各部会の研究成果の発表の場であるとも考えております。その意味では、専門性を保ちつつ、一般の方々に理解容易なものも掲載すべきと考えております。それでも市民の方の要望を把握することは難しい面もあり、市の方からの投稿原稿募集のあり方には、現在試行錯誤の段階でもあります。

委員：そうであるならば中高生が読めるような配慮（注釈、ルビなど）が必要であると思う。

議長：巻末に注釈を纏めるなどの工夫が必要であるということですね。例えば、漫画に現れる難しい漢字表現でも、それぞれの漢字に意味が込められているということから考えると、中高生でも理解できる、というような視点があるかな、と思います。難しい言葉を使用しないということではなくて、分かりやすいように、読者を導くということが大切かと思います。

事務局：他の自治体で発行しているもので、中高生も読みやすいというようなものがあれば、情報を頂戴できればと思います。

議長：頒布の対象が小中学校となっておりますが、これは教員対象ということか。

事務局：各学校に1冊です。頒布後、学校が図書室等におくというような判断は教員になります。

議長：関係機関とありますが、高校や大学などはいかがですか？

事務局：市内にあるものにはお送りしていますが、市外は対象外です。

委員：どのような読者を対象にするのかということ、そして市民の方々との接点をどのようにするかということは重要。後者については、広報ベースで考えれば、市のホームページに図録を掲載するなど、紙ベース以外にもWEBベースでも公表すると効果的ではないか。紙ベースとWEBベースのニーズは、それを必要とする年齢層などが違うのではないか。紙ベースに偏らないようにして、広いニーズに応える必要があるのではないか。そうすると「印西の歴史」も予算に縛られずに、WEB公開を前提に再考することに行き着くのではないか。

事務局：WEB公開は課題になっています。それでも例えば市のホームページになど周知文書を掲載させるにはフォント等で課題があり、引き続き検討中です。

委員：他の市史などにはWEB公開もある。

事務局：インターネット社会が進む中で、市の行政のあり方も検討する必要があります。デジタル配信は、経費節減にも繋がります。そのような意味でも検討させていただきます。

議長：ネットユーザーとそれ以外の両方について取りこぼしが無いようにお願いいたします。

委員：私は市民団体「木下まち育て塾」の会長でもある。今般、宝田家の御子息が副会長に就任された。

今、明治期の日記を読む会というのを毎月行っている。ところで、芸術祭だが、印西市にでも市制施行30周年記念とのことで、令和8年度内にも段階的に展開するように聞いている。そこで、(2)普及活用事業のうちセンター企画展だが、私は地域コーディネーターでもあることから、6月14日(日)に、地域活性化を目的として万葉公園で町中音楽祭を開催予定である。その際に、資料センターにも足を運んでもらうように考えている。市制施行30周年記念のイベントとして、ひとつの(案)として、印西市の10大ニュースを30年分の展示はいかがかと当事務局に提案して投げか

けてみた。

事務局：木下交流の杜歴史資料センターの利用者増にもなることから検討させていただきます。

議長：既に企画されているものはあるのですか？

事務局：市の持っている写真などはありますので、事務局で煮詰めていこうと思います。

委員：さきほど別の委員から指摘がありました「わかりやすい」ということは、大切な視点だと思う。市史は専門家のために作成している訳ではなくて、市民に広く読んでいただいて、市の将来をどのようにするか、ということを考える上で参考になるように、過去を振り返るということを目的にしている。そうすると、市民に分かりやすく提供するということが必要になる。そのために、市史の投稿規程にそのような趣旨を規定することもよいと思う。

例えば、専門用語には注記や補足説明を入れるとかいうことになる。それでも、筆者は当然に理解されるということで作成するから、事務局が査読の際に、リクエストを入れるということが必要。それは、文体等の形式審査ということで、刊行には必携のことである。それによって市民皆さんに読んでいただける、ということでなければ、市による市史ということの目的を達成したことにはならない。

事務局：確かに、こちらからのリクエストが不足しているというように感じています。

これからは、すべての刊行について、それを心掛けるようにします。

委員：刊行の進捗は、順調であると考えてよろしいでしょうか？

事務局：進捗状況については、若干修正の必要があります。

委員：マンパワー不足、調査は時間がかかるもので正確にやらなければいけないものなので、現実を踏まえて検討して欲しい。参考までに、過去の専門委員の名簿を頂戴したいと思う。私の勤務先は、郷土資料館があり、逆に市史編さんが止まっている面がある。それでも企画展などを行っているが、印西では市史編さんや公文書のことが重要とされているので、企画に向ける余裕が生じていないという印象だか、どうか。

事務局：そのとおりです。市史編さんは調査に時間がかかる分、企画展など普及啓発活動が停滞していることがあります。

議長：それでは 議題（２）令和８年度市史編さん事業計画（案）はご了承いただくことでよろしいでしょうか。

（承諾意思表示あり：【うなずきあり】）

議長：ご了承していただき、ありがとうございます。議題（２）令和８年度市史編さん事業計画（案）は了承されました。

■議題（３）その他について

議長：それでは、議題の（３）その他についてですが、委員の皆さんから何かある方はいらっ

しゃいますか。

委員：確認したいのですが、例年5月3日開催の平岡の「鳥見神社の獅子舞」は開催されませんか。

事務局：未定と聞いております。舞手がないということでございます。印西市には獅子舞で4つの保存会がありますが、令和7年には、そのうち2つが中止となっております。4月の「八幡神社の獅子舞」、9月の「いなぎ獅子舞」です。

本年度の「八幡神社の獅子舞」、そして平岡の「鳥見神社の獅子舞」でございますが、これについて現在、話し合い続けられています。これらの保存会との話し合いでは、それぞれ保存会の維持が難しいということが出ております。

議長：村落部の人口減もありますか？

事務局：旧市街地で特に人口減もあります。

コミュニティが衰退しているということで、文化財についても、やはり「人がいて」の文化財ですから、同じような傾向にあります。

議長：地方は厳しい時代だと思います。

議長：他に何かございますでしょうか。

(特になし)

議長：それでは、すべての議案審議が全て終了しましたので、ここで議長の任を解かせていただきます。

事務局：3件ご報告がございます。

1つ目は、教育委員会に組織に改編でございます。教育部に加えて、生涯学習部が新設され、令和8年度から二部体制になります。生涯学習部には生涯学習課、文化振興課、そして図書館課が設けられます。市史編さん事業は、文化振興課が担当します。

2つ目は、芸術祭です。現代アートと地域資源を連携させて、地域の活性化を図るものです。インバウンドの観光もターゲットにしている、成田市、栄町と連携で行います。千葉県がオブザーバーになります。印西市のメイン会場は、旧宗像小学校と印旛沼周辺になります。成田市は新勝寺参道、栄町は房総のむらです。

3つ目は、令和8年度に文化財なども含め、指針を検討する予定です。

委員：令和8年度の事務局の体制について聞かせてください。

事務局：令和7年度と同じです。その中で市史編さんを中心に進んでいきたいと思っております。

各委員の皆様におかれましては、今後とも、いろいろとアドバイス等をいただきまして、事業にご協力いただきたいと思います。

それでは「令和7年度第2回印西市史編さん委員会」会議を閉会とさせていただきます。

ます。

本日はありがとうございました。

令和7年度第2回市史編さん委員会の議事録は事実と相違いないので、これを承認する。

令和8年3月31日

印西市史編さん委員会

議事録署名委員 大友 一雄